

5. 奄美群島のユニバーサルツーリズム推進へむけて

5-1 奄美群島のユニバーサルツーリズム推進の要点

本事業では、与論島、喜界島で各2回の検討会を開催と各1回の現地調査を実施した。また、令和2年度の奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業では、奄美大島、徳之島、沖永良部島で検討会と現地調査を各1回開催し、各島の観光、交通および保健福祉関係者を交えた意見交換と、各島の主要な観光拠点の現状確認を行った。

2か年にわたる事業成果を踏まえ、本事業では車いす利用の障がい者と高齢者を対象とするモニターツアーを2回、催行し、奄美群島のユニバーサルツーリズムの推進に資する知見の収集を試みた。

(1) 検討会と現地調査から抽出された知見

与論島、喜界島の検討会と現地調査で議論を行った項目をもとに今後へ向けた知見を収集した。以下にその結果を示す。

①モデルコース(案)と旅程について

《モデルコース(案)の旅程内容全般》

- ・車いす利用者は事前の準備が必要。
- ・体験メニューに棲み分けや告知が必要かもしれない。
- ・障がい者と健常者の楽しむポイントの違いの理解。
- ・障がい者や高齢者へのまちあるきツアーの提供。
- ・障がい者や高齢者にあわせた観光の速度への理解。
- ・スムーズな受入れのための旅行企画者との入念な調整や事前準備。
- ・車中からの風景の楽しませ方や、車中から眺望できる場所の情報収集。
- ・詰め込み過ぎない行程や休憩時間の設定。

《体験プログラム》

- ・難しいアクティビティでも、スタッフとのコミュニケーションを楽しめる受入れ方策の検討。

《雨天時》

- ・ユニバーサルツーリズムのルートとあわせた雨天時に対応可能な観光ルートの整備。

《与論島》

- ・車いすで利用できる飲食店情報だけでなく、高齢者向けの食形態も重要。
- ・バリアフリールームのある宿泊施設は島内にない。
- ・島内の公衆トイレは充実している。

《喜界島》

- ・高齢者は朝の準備に時間がかかるので朝早くからは動けない。ゆっくり朝ごはんを食べて、トレイを済ませておく必要がある。
- ・ビーチは近くまで行くだけで満足できることもあり、その人に合わせて考えてほしい。
- ・途中の休憩時間も大切。

②島内と島間の移動交通について

- ・ 移動手段の提供については検討が必要。
- ・ 島民の利用が本来目的の社協の専用車両以外に、自由度の高い島内移動のためのレンタカー利用の可能性について確認が必要。
- ・ 島間移動のフェリーの事前予約時に必要な情報の周知。

③情報発信について

- ・ 奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズム関連の情報収集、管理、一元的な発信。
- ・ 観光協会のホームページへのバリアフリー情報の掲載。
- ・ 役場が集約している島内のトイレ情報の公開（観光協会サイトへの掲載）や集約している情報の有無の確認
- ・ 車いすに対応している飲食店や宿泊施設の確認と情報発信
- ・ 専用器具のレンタルや島内の病院が対応可能な医療サービス等の情報の観光協会者との共有。
- ・ 車いす対応のトイレが少ないため、車いすで利用できるトイレの場所の周知。

④ユニバーサルツーリズムの推進体制について

《推進》

- ・ 広範な連携体制づくり。
- ・ 社協の情報共有の場の整備や社協関係者間の観光関連情報を共有する。
- ・ 奄美群島の保健福祉の現場担当者が集まり、観光の視点で話す場の整備。
- ・ 観光、交通、保健福祉の関係者間の情報共有体制整備と観光や交通関係者の意識醸成。
- ・ 観光と福祉の知識を一緒に考えられる場づくり。
- ・ 高齢者、障がい者が旅行できるようなネットワーク整備
- ・ ユニバーサルツーリズム受入れが地域の新産業につながる各種取り組みの検討。

《受入》

- ・ 社協による車いす等の貸し出しサービスの周知。
- ・ トラベルヘルパー等の観光受入れ地としての介助や介護のサポートサービスの整備。
- ・ 島内の福祉施設職員が旅行をサポートする有償ボランティアの仕組みづくり。
- ・ 島内の既存高齢者施設の協力による着替えや入浴ができる環境整備。
- ・ 雨天時対応としての島内の就労支援事業所の活用方策の検討。
- ・ 各島の保健福祉団体等との協力体制等も視野に入れたユニバーサルツーリズムの案内窓口や問合せ先の明確化。
- ・ 公園施設等の施設整備時に道路と園内の段差の解消、車いすの乗降可能な縁石の使用等のユニバーサルツーリズムやバリアフリーを意識した地元行政機関からの要望。

(2) モニターツアーから抽出された知見

奄美群島の5島で実施したモニターツアーより、参加者の意見や現地での観光行動等をもとに、今後へ向けた知見を収集した。

① 島内移動と島間移動について

《島内移動》

- ・検討時には、専用車両でなければ移動できないと思われていた島内移動は、折り畳み車いす利用の場合、通常のレンタカー(ボックス型の軽自動車、ワゴン型の乗用車)でも可能であった。

ユニバーサルツーリズムの客層の障がいの状況や使用している車いすの種類により、島内移動の交通手段は異なるため、レンタカー事業者への折り畳み車いす利用者の受入れについて、留意点を周知し、島内移動の自由度を高めることが望まれる。

- ・奄美群島全体で、自動車の手動運転用専用器具の導入を検討する必要がある。

《島間移動》

- ・フェリー移動では、全員揃っての早めの乗船手続きと予約時の事前情報提供が重要になる。
- ・航空機移動では、事前に航空会社へ車いす利用や持ち込みの確認が必要になる。飛行機の乗降時の航空会社の車いすへの乗り換えや自分の車いすの手荷物預けと受け取りができれば、スムーズな移動が可能であった。

電動車いす利用者の場合、航空会社への事前の電動車いすの機内持ち込みの問い合わせが必要になり、問い合わせから以下のようなことが分かった。

- 大きさによる制限はあるが基本可能
- 持ち込み料は無料
- 航空券予約後、事前に持ち込みの申込が必要
- 車椅子についても同様

最終的な機内持ち込みの可否は、予約予定航路・大きさ・重さ・バッテリーなどを確認し、航空会社が判断したうえで確定する。

② 宿泊施設について

- ・宿泊施設のサイト上にバリアフリールームの掲載のある宿泊施設は、群島全体では少数ではあるが、モニターツアーで利用した宿泊施設については、概ね良好な車いす利用者の評価が得られた。
- ・今後、宿泊事業者間の情報共有やバリアフリールームの内覧と合わせた、簡易な段差解消方法の検討や施設改修方法の検討等も必要である。
- ・バリアフリールームのある宿泊施設の情報集約や観光推進団体へのサイトのリンク等の情報発信の強化や、トラベルヘルパーをセットにした宿泊プランの検討等も必要と考えられる。情報発信にあたっては、寸法の入ったバリアフリールームの平面図、異なる角度から撮影したバスルームや室内の画像を複数掲載し、客室状況の広範な周知が望まれる。
- ・島内にバリアフリー対応の宿泊施設が無い場合、行政機関や医療機関と連携と車いす利用者や保健福祉分野の有識者を入れた地域としての課題解決策を検討する場の設置が望まれる。

③体験プログラムと雨天時の過ごし方について

《体験プログラム》

- ・認定エコツアーガイドのエコツアーは、ガイドが運転する自動車に乗車するため、ユニバーサルツーリズムへの汎用性や親和性が高いことが確認できた。

今後、ガイドを対象とする介助や介護の知識の周知とあわせてユニバーサルツーリズム対応のエコツアープログラム等の展開が期待できる。

- ・集落あるきやまちあるき等は、地域の道路事情(路面の凹凸、勾配の緩急、交通量の有無等)を踏まえ、群島全体で取り組むことができる体験プログラムであることが確認できた。

留意点としては、長めの体験時間の設定やアクセスが困難な場所(階段、大きな段差、海浜、砂利敷きの道、距離の長い傾斜地等)にある対象物の見せ方の工夫が必要になる。

《雨天時》

- ・島内の図書館や歴史民俗資料館等の文化施設等は、地域住民向けの施設としての認識が強いが、観光客が楽しむことができる展示物も多く、施設職員による展示物の説明等とあわせて雨天時に利用できる施設としての認知度の向上が望まれる。

留意点として、開館時刻や休館日等の情報は、観光推進団体のサイトにも掲載することが必要と考えられる。モニターツアー時は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置期間だったため、臨時休館中の施設が殆どだったが、まん延防止等重点措置期間の解除後も臨時休館が継続している施設もあったため、施設利用の確認方法や対応窓口の明示が必要であった。

- ・島内住民が利用するスーパーマーケットや集落の共同店、cafe 等も雨天時の観光立ち寄り先として活用できる可能性が高いため、雨天時に利用できる施設や場所として、観光マップや観光推進団体のサイトへの情報掲載が望ましい。

④奄美群島のユニバーサルツーリズム推進の要点について

- ・健常者の観光行動に比べ、車いす利用者の観光行動や楽しみ方は、多くの場所を訪れるよりも、1つの場所を深く、時間をかけて堪能する時間消費型の傾向が強いことが把握できたため、着地型観光のターゲットとしてのユニバーサルツーリズムの受入れを検討する必要がある。

- ・宿泊施設やトイレ、飲食店等の観光受入れの現状によって、車いす利用者の観光が困難な場合は、聴覚障がい者や視覚障害者等にターゲットを絞った観光受入れも検討することで、奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズムの客層の幅が拡充し、島ごとのターゲット区分が明確になる。

《情報提供方策》

- ・スマホからの手軽な情報入手を可能にするため、バリアフリールームのある宿泊施設や車いすで利用できる飲食店、車いすに対応した島内のトイレ等の情報は、継続的な更新が容易な既存のデジタルマップサービスを利用することも必要である。

これらの情報とあわせて、受け入れ態勢の整備状況によって、福祉関連の器具のレンタルやトラベルヘルパーの予約先等もあわせてデジタル情報として発信することが望まれる。

⑤同行した有識者による知見のまとめ

	対麻痺車いす	高齢者（歩行能力低下）
症状	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 脊髄損傷により両脚の力が全く入らない ✖ 腰の力も入らず、腰の固定もしくは手の支持が必要 ● 両手の力は健在 ● 車椅子操作は自力で可能 ● 低い段差は自力で乗り越える ▲ 勾配がきついと介助がいる ▲ 立ち上がりは出来ないが、車椅子からの平行移動は可能 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 短距離歩行は可能 ✖ 歩行中つま先を引きずるため、整地されていないと転倒の恐れあり ▲ 両手の力が弱いため、平地で整地された場所では車椅子操作可能 ▲ 立ち上がりは手すりなど捉るものがあれば可能 ✖ 下肢のしびれや痙攣が疲労とともに出現
車の乗り降り	<ul style="list-style-type: none"> ● 普通車可能、車高の少し高いワンボックスカーも可能 ▲ 車椅子の収納は、自家用車では自力で助手席等に収納可能 ✖ 車椅子をトランクに収納する際には介助必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 普通車可能 ✖ 車高が高くなると脚の持ち上げに介助を有する ✖ 車椅子の収納は介助を要する
車椅子移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 平地及び多少の悪路（砂利・芝生等）は自力可能 ▲ 緩やかな勾配の単距離は自力可能 ● 10センチ程度の段差が1段なら自力で超える、降りることが可能 ✖ 段差が2段以上になると困難。両横から2名の介助者が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平地で整地がされた場所（アスファルト等）は自力可能 ✖ 勾配、段差（低い段差でも）は介助を要する
歩行移動	<ul style="list-style-type: none"> ✖ 不可 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平地で整地された場所だと、両手杖にて可能、ただしスピードはゆっくり ✖ 砂利道など悪路は足先がつまずく ▲ 20 cm程度の段差であれば、介助者や手すりがあれば可能
障害者トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレ内移動は自力可 ● トイレ便座移動は手すりを用いて可 	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレ内移動は自力可 ● トイレ便座移動は手すりを用いて可
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> ▲ ユニット型のトイレ・お風呂で入口に段差がある場合、入口前のスペースで車椅子が直角につけることで可能 ▲ ベッドの横に車椅子が進入するスペースが必要 ▲ 浴槽の縁に腰掛ける幅があれば、浴槽の出入り可能 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 部屋内につかまるための家具等が必要。壁だけでは不安定 ▲ ユニット型トイレ・お風呂の入口段差は、超える際につかまえる手すりや柱があれば可能 ✖ ベッドが高い場合は乗り降りの際に転倒の危険性あり

<p>アクティビティ 観光</p>	<p>●カヌー：乗り移りで介助量が大きかったが（3人がかり）、操作は可能 ●街中歩き：勾配で介助が要する場面もあったが、自分のペースで車椅子を操作して、楽しめている ▲景勝地：段差や悪路などは介助を要する</p>	<p>▲街中歩き：車椅子操作に介助を要するも楽しめている ✖️アクティブ時間：その時は気が張っていて「大丈夫！」と答えても、あとから疲れが・・・</p>
<p>必要な物品</p>	<p>・車椅子 ・お風呂用マット（小）</p>	<p>・車椅子 ・杖（両手用）</p>
<p>ユニバーサル ツアーをより 充実するため に</p>	<p>○フリースロープ 製造販売元：株式会社ミスギ 車いすを安心・安全・スムーズに移動（折りたたんで持ち運びができる） 種類やサイズが多数あるため、用途や設置場所に適した商品を選択することが可能 http://co-misugi.com/pro-freeslope.html</p>   <p>画像：株式会社ミスギのサイトより</p> <p>○悪路用車椅子 福祉用具設計・製造販売メーカー：有限会社 COM泉屋 市販されている車いすへのオールテレーンタイヤ取付事例 Pant her a にオールテレーンタイヤ！！無敵車椅子。 COM泉屋 (comizumiya.jp)</p>  <p>画像：有限会社 COM泉屋のサイトより</p> <p>○牽引式車椅子補助装置 JINRIKI/じんりき 製造販売元：株式会社 JINRIKI 不整地での車いすのスムーズな移動を可能にする車いすの補助装置。 https://www.jinriki.asia/</p>   <p>画像：株式会社 JINRIKI のサイトより</p>	

(3) 今後の受け入れ態勢構築へ向けて

令和2年度および本事業で実施した、奄美群島の5島の検討会、現地調査およびモニターツアーより、今後の奄美群島におけるユニバーサルツーリズムの推進では、受入れ体制の構築とその後の運営が非常に重要であることが分かった。

特に、ターゲットとするユニバーサルツーリズムの客層については、車いす利用者（障がい者、高齢者）に限定せず、聴覚や視覚等の障がい者も受入れ対象ととらえることや、現状の交通機関や宿泊施設の状況を踏まえ、1回の旅行時の最適な受入れ人数についても明確にすることが望ましい。車いす利用者の団体旅行の受入れは、島内移動や宿泊施設のバリアフリー客室数等の観点から難しい状況にある。

一方、受入れ体制の構築および運営については、継続性が求められるため、公的な資金による運営では限界が生じることが予測される。そのため、民間事業者が何等かの事業として、受入れを手掛けるための基盤整備が必要になる。

また検討会やモニターツアーの結果より、各島の市町村にある社会福祉協議会や民間の保健福祉関連の事業所、医療機関等との連携体制も不可欠である。

具体的には、ユニバーサルツーリズムの様々な客層への介助・介護人材によるトラベルヘルパー等の有料サービスや、旅行の快適性や安全性を担保する補助器具のレンタル、島内移動の自由度を向上させるサービスの提供とあわせた情報発信や問い合わせ対応等が必要であり、広範な観光事業者や宿泊施設に対する受入れのための意識醸成等もあわせて実施することが望まれる。

奄美群島全体として社会福祉協議会および民間事業所、医療機関と観光推進団体を交えた早急な合意形成と受入れ体制の整備が急務といえる。

参考資料

- ・奄美群島ユニバーサルツーリズム検討会次第、参加者名簿

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業 第1回与論島検討会

開催日時: 令和3年9月30日(木)

16:00~18:00

開催場所: 与論町役場1F多目的ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業の概要と主旨…資料1
4. 他地域のユニバーサルツーリズム事例紹介…資料2
5. 与論島のユニバーサルツーリズムの現状や受入れ経験（意見交換）
6. 与論島の観光モデルコース(案)について（意見交換）…資料3
7. 障がい者も参加可能な与論島の体験プログラムについて（意見交換）
8. 事務連絡
9. 閉 会

【配布資料】

- ・ 次第、名簿、座席表
- ・ 資料1 奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業の概要と主旨（別紙あり）
- ・ 資料2 他地域のユニバーサルツーリズム事例紹介
- ・ 資料3 与論島のユニバーサル観光モデルコース（案）

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業 第2回与論島検討会

開催日時: 令和3年11月10日(水)

16:00～18:00

開催場所: 与論町役場1F多目的ホール

議 事 次 第

1. 開会
2. 現地調査を踏まえた与論島のモデルコース修正案（意見交換）…資料1
3. 与論島の体験プログラムとユニバーサルツーリズムの確認（意見交換）
4. 高齢者の観光受入れに求められる要点（意見交換）
5. 奄美群島～与論島のユニバーサルツーリズム受入れ体制について（意見交換）
…資料2
6. 事務連絡
7. 閉 会

【配布資料】

- 次第、名簿、座席表
- 資料1 与論島のユニバーサル観光モデルコース（修正案）
- 資料2 奄美群島で考えられるユニバーサルツーリズム受入れ体制

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業 第1回喜界島検討会

開催日時: 令和3年11月12日(金)

18:00~20:00

開催場所: 喜界町役場1F多目的ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業の概要と主旨…資料1
4. 他地域のユニバーサルツーリズム事例紹介…資料2
5. 喜界島のユニバーサルツーリズムの現状や受入れ経験（意見交換）
6. 喜界島の観光モデルコース(案)について（意見交換）…資料3
7. 障がい者も参加可能な喜界島の体験プログラムについて（意見交換）
8. 事務連絡
9. 閉 会

【配布資料】

- ・ 次第、名簿、座席表
- ・ 資料1 奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業の概要と主旨（別紙あり）
- ・ 資料2 他地域のユニバーサルツーリズム事例紹介
- ・ 資料3 喜界島のユニバーサル観光モデルコース（案）
- ・ 別紙 第1回検討会への提案（平田様資料）

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業 第2回喜界島検討会

開催日時: 令和3年12月21日(火)

18:00~20:00

開催場所: 喜界町役場1F多目的ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. 現地調査を踏まえた喜界島のモデルコース修正案（意見交換）…資料1
3. 喜界島の体験プログラムとユニバーサルツーリズムの確認（意見交換）
4. 高齢者の観光受入れに求められる要点（意見交換）
5. 奄美群島～喜界島のユニバーサルツーリズム受入れ体制について（意見交換）
…資料2
6. 事務連絡
7. 閉 会

【配布資料】

- 次第、名簿、座席表
- 資料1 喜界島のユニバーサル観光モデルコース（修正案）
- 資料2 奄美群島で考えられるユニバーサルツーリズム受入れ体制

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業 与論島検討会 委員名簿

委員名	所 属	備考
野口 安之 様	イチョーキヴィラ フロント担当	
本園 秀幸 様	ヨロン島ビーチボーイクラブ・ビーチボーイ号 船長	
柳田 真希 様	MEEDAFU' S YUI HOSTEL & COFFEE 代表	
菊 凜太郎 様	与論民俗村	
南 有隆 様	南陸運(株)	
竹林 顯英 様	(有)有村運送店 代表取締役	
龍野 勝子 様	(株)龍野運送店 専務	
川畑 力 様	介護老人保健施設風花苑	
胸元 健 様	介護老人保健施設風花苑 理学療法士	
南 晶仁 様	与論町社会福祉協議会	
里山 剛史 様	(一社)ヨロン島観光協会 次長	
麓 誘市郎 様	与論町 商工観光課	
麓 由理子 様	与論町 地域包括支援センター	
南 勇輔 様	与論町教育委員会	
島外有識者	所 属	備考
白浜 幸高 様	株式会社和月 統括マネージャー(理学療法士)	
オブザーバー	所 属	備考
重野 翼 様	鹿児島県沖永良部事務所 総務福祉課 福祉係 主事	福祉担当
事務局	所 属	備考
本 一郎	大島支庁 総務企画部 総務企画部長	
八木 徹	大島支庁 総務企画課 総務企画課長	
坂元 祐次	大島支庁総務企画部 総務企画課 主幹兼商工観光係長	
岩崎 あかね	大島支庁総務企画部 総務企画課 商工観光係 主事	
小池 利佳	株式会社奄美群島環境文化総合研究所	
濱本 智子	株式会社奄美群島環境文化総合研究所	

令和3年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業
喜界島検討会 委員名簿

委員名	所 属	備考
岩切 進一郎 様	喜界第一ホテル・支配人	
外内 淳 様	よんよ〜り喜界島・事務局	
体岡 広美 様	合同会社喜界島結い・代表社員	
駒越 太郎 様	NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所・研究員	
西尾 勝幸 様	株式会社奄美航空喜界バス・所長	
喜禎 康祐 様	(株)喜禎運送店・代表取締役社長	
平田 文人 様	小規模多機能ホーム 十五夜	
宜名真 孝子 様	ていだの会・会長	
界田 満仁 様	喜界町社会福祉協議会・常務理事兼事務局長	
田邊 大智 様	喜界島観光物産協会・事務局長	
上地 義隆 様	喜界町 企画観光課 観光推進チーム リーダー	
中山 勝史 様	喜界町 企画観光課 観光推進チーム 移住定住担当	
登 聖佳 様	喜界町 企画観光課 観光推進チーム 観光担当	
作井 智美 様	喜界町 企画観光課 企画調整チーム 公共交通担当	
栄 良治 様	喜界町 保健福祉課 福祉チーム 係長	
吉田 幸子 様	喜界町 地域包括支援センター 保健師	
澄田 直敏 様	喜界町教育委員会 文化財保護チームリーダー	
島外有識者	所 属	備考
白浜 幸高 様	株式会社和月 統括マネージャー(理学療法士)	
オブザーバー	所 属	備考
朝日 浩之 様	鹿児島県喜界事務所 総務係 主査	観光担当
飯田 将晃 様	鹿児島県喜界事務所 福祉係 主事	福祉担当
事務局	所 属	備考
八木 徹	大島支庁総務企画部 総務企画課長	
坂元 祐次	大島支庁総務企画部 総務企画課 主幹兼商工観光係長	
岩崎 あかね	大島支庁総務企画部 総務企画課 商工観光係 主事	
小池 利佳	株式会社奄美群島環境文化総合研究所	
濱本 智子	株式会社奄美群島環境文化総合研究所	

令和3年度
奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業
報告書

令和4年3月

業務発注者 鹿児島県大島支庁
業務受託者 (株)奄美群島環境文化総合研究所